

二〇一〇年六月一五日(参加者二〇名)

水馬ぶつかりさうでぶつからず	宏	虎
蜘蛛の囿に設計図なし幾何模様	"	"
吊橋の揺れて万緑傾ぎけり	"	"
昼寢覚小さな欠伸乳匂ふ	"	"
老鷺の正調朗々谷こだま	"	"
水田の続くまほらや夕映えて	明日香	"
あひたがひひそひそ声や蚩狩	"	"
修羅のごと山揺らしをり青嵐	"	"
山峡の夏霧雲と合体す	"	"
下闇に供華新らしき無縁塚	わかば	"
天平の宮跡わたる風涼し	"	"
梅雨晴間満艦飾に濯物	"	"
百選の水が自慢や冷奴	つくし	"
延命の切株撫ぜる手の涼し	"	"
京格子続く家並やつばめ来る	"	"
遊覧船かもめ引き連れ水尾涼し	うつぎ	"
しんがりも良し後より河鹿笛	"	"
石庭に一閃せしは青蜥蜴	"	"
在りし日のままに揺り椅子夏館	菜々	"

あぢさゐの毬に触れもし登山バス	"	"
巫女涼し藤の簪ゆらしては	"	"
濃あぢさゐ雨の寺苑に芳しく	ひかり	"
山裾へ植田鏡の展けけり	"	"
天平の薫風通ふ朱雀門	よし子	"
久々に母を訪ねて蚊遣香	"	"
対岸にクレイン林立雲の峰	有香	"
でで虫に名前を付けて子ら遊ぶ	"	"
河鹿鳴く昼なほ暗き峡の奥	小袖	"
夏草の宝庫や峡の道楽し	"	"
紅ほのと染めしあぢさゐうひうひし	満天	"
片蔭に下校子を待つ見守り隊	"	"
夏草や整列したる兵の墓	ぼんこ	"
新樹光ヤマトタケルの全身に	こすもす	"
どくだみの溝の底より花掲ぐ	せいじ	"
朝風と会話してをる立葵	きづな	"
ペンギンの遊泳頭上に園若葉	はく子	"

定例句会みのる選

二〇一〇年六月一五日(参加者二〇名)